

## 芦屋市子ども・若者計画（中間まとめ） でいただいたご意見及び市の考え方（2名5件）

番号	意見該当箇所	ご意見	市の考え方
1	計画全般	<p>子どもや若者が自由に出入りできる場所があればと思います。飲食自由、ゲームもOK、音楽、おしゃべり、少々暴れても大丈夫で、学校から帰宅した子どもたちが使える場として居心地のよい空間があってほしいと願います。</p>	<p>本計画の重点目標3（1）②では「気軽に集える居場所づくり」として、8件の個別事業をあげています。このほかにも参加機会の拡大も含め、子どもや若者のための誰もが利用しやすい居場所の確保に努めてまいります。</p>
2	計画全般	<p>不登校の子どもに対して、担任の先生方は、忙しい中、よく自宅訪問して下さいますが、会えても数分です。数分でも嬉しいことですが、子どもが変わるきっかけとしては不十分です。もちろん、適応教室も必要で学校に復帰する前段階としての役割は非常に大きいと思いますが、学校っぽい適応教室に行けない子もいます。</p> <p>このような子どもや若者が自由に出入りできる居心地の良い場所があるといいと思います。できれば、監督の方は、地域の方や若い方等、適度な距離を保てる方をお願いして、斜めの人間関係を学べる場所であってほしいと願います。</p>	<p>本計画の重点目標2（2）②では「仲間同士の支えあいの支援」の事業をあげています。困難な状況にある子ども・若者やその家族が交流し成長しあえる場のサポートを行っていくこととしています。人との関わりを保ち、子ども・若者が安心して自分らしく生きていけるよう、支援します。</p>
3	計画全般	<p>不登校などの問題はすぐ解決したいので、予約が1ヶ月も2ヶ月も先というのではなく、すぐに相談できることやコミュニケーションスキル等も学べたら、ありがたいです。</p>	<p>本計画の重点目標2（1）②では「若者相談センター「アサガオ」の充実」をあげています。相談窓口の充実やセミナーの開催により、自立に必要な能力を身につける支援を行います。</p> <p>現在、若者相談センターでは、長期間お待たせすることなく、相談をお受けできています。また、アサガオセミナーとして「親子・対人関係のコミュニケーションスキルを学ぶ講座」を年6回程度開催しており、市民のどなたでもご参加が可能です。</p>

4	<p>困難を有する子ども・若者やその家族を支援する</p>	<p>包括的な支援を行うためには、「訪問系のアウトリーチ支援」と本人の交流や、家族の交流ができる、「ピア・セルフヘルプ的な支援」のできる居場所づくりが必要だと思います。</p>	<p>アウトリーチ支援（訪問支援）は、ひきこもり等に関する知識に加え、家族や本人の同意、タイミングなど、より専門的な知識が必要であるため、本計画に記載する「重点目標2（2）②の個別事業、子ども・若者への訪問支援（アウトリーチ）」において、今後その方法も含めて検討を行いながら体制の整備を図ります。</p> <p>ピア・セルフヘルプ的な支援は、計画の「重点目標2（2）②の個別事業、仲間同士の支えあいの支援」において、困難な状況にある若者やその家族が「交流し成長しあえる場」として「居場所づくり」を推進していきます。</p>
5	<p>困難を有する子ども・若者やその家族を支援する</p>	<p>ネットワーク形成には、「定期的な情報共有ができる場」が必要となります。青少年育成課主体で教育・福祉連携が可能な場を設けてください。生活困窮者支援法で行われる自立支援プログラムや、学習支援との連携、また卒業時の状況からシームレスな連携を取るために教育機関との連携が求められると思います。</p>	<p>福祉及び教育機関等で構成する連絡会を定期的開催しており、今後さらなる連携を図ります。また国や県等の関係機関や団体との連携を強化していきます。</p> <p>また、個々の状況に応じた、切れ目のないきめ細やかな支援ができるように努めてまいります。</p>